

鬼石中だより

News from Onishi Junior High School

自立・貢献

藤岡市立鬼石中学校
令和6年度学校だより 第9号
令和6年12月23日
文責：校長 五十嵐

* 2学期も大変お世話になりました *

2学期も今日で終わりを迎えます。振り返れば、3年生の思い出深い修学旅行、2年生の社会との出会いを体験した職場体験学習や、クラスの絆を深めた校外学習など、様々な行事を通して生徒たちの成長を感じることができた、実り多い学期となりました。また、全校生徒が一丸となって作り上げた桜華祭や、美しい秋空の下で力走したマラソン大会など、学校行事を通して、生徒たちは自己肯定感や協調性を高め、大きく成長したと感じています。何より、鬼石中生としての誇りと自信を持ち、一つ一つの行事や活動に全力で取り組む生徒たちの姿には、校長として大きな感動と喜びを覚えました。

保護者の皆様には、PTA活動へのご協力、そして日頃からのご理解とご支援に心から感謝申し上げます。皆様の温かい励ましが、生徒たちの学習意欲を高め、学校全体の活性化につながっています。生徒たちは、保護者の皆様の期待に応えようと、日々努力を重ねています。3学期も、生徒たちの更なる成長に向けて、教職員一同力を合わせてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新年が皆様にとって幸せな良き年となりますように!

* オープンスクール・PTA教育講演会 12/14 *

12月14日(土)はオープンスクールでした。1、2校時に授業参観、3、4校時にPTA教育講演会を実施しました。当日はたくさんの保護者の方々に来校いただき、子供たちの様子を見ていただきました。

PTA教育講演会は講師として西部教育事務所の社会教育主事の先生方2名をお迎えし、「親子で学ぶ思春期～互いに理解するコミュニケーション～」と題して、演習形式で実施しました。本講演会は、西部教育事務所の「ワクワク子育てトークン」という事業の一環で実施し、生徒・保護者・職員約100名が受講しました。演習は、夜遅くに塾から帰った中学生と親による会話という場面設定の下で、生徒同士、保護者同士が親と子の役に分かれて役割演技しながら、それぞれの気持ちを考えました。役割演技の後、やってみて気付いたことを基に、モデル会話の中の親子に対するアドバイスを考え、発表しました。

講演の最後に講師の先生から「『YouメッセージからIメッセージ』に切り替えていくことで互いに理解するコミュニケーションとなっていく」とご助言をいただき、閉会となりました。参加者全員にとって学びの多い貴重な機会となりました。ご協力くださった皆さん大変お世話になりました。



* 2学期校長講話のまとめ *

1学期に引き続き、2学期も生徒たちの成長を願い、意識してほしいことを「十文字(タイトルの)講話」として伝えてきました。生徒たちも校長の話をしっかり聞いて、一人一人が大切にしたい言葉を持ち、自分自身の成長に繋げようとしています。先日実施した高校入試に向けた3年生の面接練習でも、印象に残った講話とそれをどのように自分自身の成長に繋げたのか質問したところ、面接練習に臨んだ全ての3年生がしっかりと自分の考えを校長に伝えることができました。各講話の要点をここにまとめましたのでご覧ください、各家庭でもぜひ話題にしてください。



「何か一つをやり続ける」(7月1学期終業式)

決意してやり始める人はたくさんいるが、それを続けられる人は少ない。やり続けるためには、そのために必要な力や気持ちがある。それは、①主体性、②責任感、③チャレンジ精神、④レジリエンスである。「何か一つをやり続ける」ことができればこれらの力を備えていると捉えてもらえることになり、これは「ものすごい」アピールになる。

「行動のレベルを高める」(8月2学期始業式)

「責任ある行動」とは、①挨拶や返事をきちんとすること、②約束や時間をきちんと守ること、③提出物をきちんと出すこと、④掃除をきちんとすることである。更に、「きちんと」は、①正確に、②規則正しく、③適切に、④真剣にの4つの意味を合わせ持つので、その意味を踏まえて実践することが求められる。この4つをきちんと実行し、「責任ある行動」のレベルを高めていく。

「執念で失敗を撥ね返す」(9月朝礼)

「執念」を身に付けるには、①「高い目標」を持つこと、②「時間をかける」こと、③「失敗をバネにすること」。生活の中では、失敗をバネにする場面はたくさんある。その場面は辛い反面、「執念」を育てたいへん重要な時である。そんな場面に遭遇した時に、この「執念」のことを思い出して自分自身を鍛えてほしい。

「はきものをそろえる人」(10月朝礼)

はきものをそろえるということは、自分の心を整えることであると同時に、次に玄関を使う人が気持ちよく使えるようにすることでもある。これは、禅宗の脚下照顧の考えに基づく考え方である。「他に向かって悟りを追求せず、まず自分の本性をよく見つめよ」という自己への戒めの言葉で、わかりやすく言うと、自分自身のことをまずは反省しなさい、という意味である。

「他の誰かを元気にする」(11月朝礼=後期人権集中学習校長講話)

人を元気にする人は、自分が元気であるようになるのは当たり前だ。なぜなら、その人はいつも人を元気にすること、笑顔にさせることを考えて行動するからである。人を幸せにする人が幸せになれるという言葉もあるが同じことだ。人は一人では生きていけない。だから、まわりの人に少しでも元気を与え、幸せにしていくことは、自分が元気になり、幸せになることにつながるのである。

「鍛錬は千日勝負は一瞬」(12月朝礼:受験に向けて)

苦勞して学習することは切れ味の悪い刀を磨くようなものである。そして多くの場合、いくら磨いても無駄だとあきらめてしまうことが多い。だが考えてほしい。その磨いてきたものはうまく成功しないかも知れないが、その時得た執念が、別の成功を与えてくれるのではないだろうか。受験に向けて、「鍛錬は千日勝負は一瞬」。そのための、今から自分の刀を磨き続けよう!